

# その他



- ・ 赤松諒一選手（本学教育学研究科修了）が吉田学長へカタールでの国際大会結果とスポーツ功労者表彰の受賞を報告
- ・ 創立76周年記念日行事を開催
- ・ サステイナブルキャンパス評価システム(ASCC)において最上位のプラチナ認証を取得
- ・ 赤松諒一選手（本学教育学研究科修了）、本田基偉選手（自然科学技術研究科2年）が、吉田学長へ日本陸上競技選手権大会の結果を報告
- ・ 金沢大学の和田学長による講演会を開催
- ・ 武藤経済産業大臣が本学を表敬訪問
- ・ ウェルネスイベント「ウェルネスデー × 栄養の力でつながるプロジェクト」を開催
- ・ 保健管理センター開設50周年を記念してシンポジウムを開催
- ・ 東京2025世界陸上 走高跳で8位入賞した赤松選手が吉田学長を訪問
- ・ 第4回岐阜大学フォト&アートコンテスト表彰式を開催
- ・ 「岐阜大学経営者の会」設立総会を開催
- ・ 第3回 岐阜大学ホームカミングデイを開催
- ・ 大学会館食堂「API DINING」の命名記念式典を開催
- ・ 医学部創立80周年・医学部附属病院創立150周年記念式典を開催
- ・ iGEM Gifuへの岐阜大学基金学長特別表彰贈呈式を実施
- ・ 吉田学長が「第31回 中山恒明賞」を受賞
- ・ 文部科学省科学技術・学術政策局参事官が本学を訪問
- ・ 畑中臨床講師への岐阜大学基金学長特別表彰贈呈式を実施
- ・ 文部科学省 高等教育局 国立大学法人支援課長が本学を訪問
- ・ 「岐阜大学経営者の会」新年会を開催
- ・ 岐阜大学が「ぎふし共育・女性活躍企業」に認定
- ・ 令和7年度岐阜大学応援奨学生学習成果報告会を開催
- ・ 北陸先端科学技術大学院大学の小泉副学長による講演会を開催

## 赤松諒一選手（本学教育学研究科修了）が吉田学長へ カタールでの国際大会結果とスポーツ功労者表彰の受賞を報告

### 【概要】

6月6日（金）、走高跳びの赤松諒一選手（本学大学院教育学研究科修了、現 SEIBU PRINCE所属、本学医学系研究科研究生）と林陵平専任コーチ（本学教育学部保健体育講座 准教授）が、吉田学長を訪問しました。

赤松選手は、5月にカタールで行われた2つの国際大会に参加し、いずれも2位の好成績を収め、世界トップレベルの選手たちと互角に渡り合う活躍を見せました。同大会での2位という成績は歴代の日本人選手で最高順位タイとなる好記録で、赤松選手からは「今年のオリンピックから引き続き、順調に好成績を収められているので、この先に控える大きな大会でも良い成績を収めたい」と吉田学長に報告がありました。

また、今年のオリンピックでの入賞の功績を称え、赤松選手及び林コーチは文部科学大臣より「スポーツ功労者」として表彰されました。選手本人の努力はもちろん、指導者の成果でもあるこの表彰に対して、林コーチは「この表彰は生涯の宝であり、今後も努力を続けるための励みにしたい」と話しました。

吉田学長は、「世界的に著名な選手になっても、いつも岐阜大学のことを考えてくれていて、こうして報告に来てくれることは本当に嬉しい。大学としてもできる限りのサポートはしていきたいので、これからも頑張ってもらいたい」とエールを送りました。

赤松選手と林コーチは、7月に開催される日本陸上競技選手権大会、そして9月に東京で行われる世界陸上競技選手権大会への出場を目指し、さらなる高みへ到達するため日々のトレーニングに励んでいます。本学はこれからも、お二人の世界への挑戦を応援します。

### ○赤松選手大会成績

5月9日

What Gravity Challenge

（ドーハ、カタール）

順位：2位

記録：2m26

5月17日

ダイヤモンドリーグ・ドーハ大会

（カタール）

順位：2位

記録：2m23



左から大数副学長、赤松選手、林コーチ、吉田学長

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/5/18	岐阜	赤松2位 走り高跳び 陸上 ダイヤモンドリーグ ～ 医学系研究科研究生 赤松諒一さん～

## 創立76周年記念日行事を開催

### 【概要】

6月4日(水)に本学講堂にて、創立76周年記念日行事を開催しました。式典には、学内外の関係者など約300名が参加しました。

式典は、吹奏楽団の演奏から始まり、名誉教授称号授与、産学連携教授称号授与・産学連携重点研究室認定書授与、職員表彰、学生表彰、学長報告、学部長報告を行いました。

吉田学長による学長報告では、大学が掲げる「ミ・ラ・イ・工」構想の実現や、教育・研究・国際交流・地域貢献活動等の実績を紹介し、特に研究活動においては、法人化以前より本学の特色としていた「生命科学」「ものづくり」「環境・エネルギー」分野が、地域とともに発展し、確実に実を結んでいる様子を紹介しました。さらに、ワンキャンパスに学部や研究センターが集結している強みや、地域創生のハブとして、岐阜県や各自治体との連携にとどまらず、東海環状自動車道岐阜インターチェンジの開通などを通して、岐阜大学を中心に東海ライフサイエンス拠点を形成していく構想なども説明しました。

式典後は、第57回岐阜大学フォーラムを開催しました。フォーラムでは、予防医学の専門家で、全国で初めて「京都大学ヘルシーキャンパス宣言」を実現された、京都大学教授の石見拓氏をお招きし、「大学のウェルネスを考える」というテーマのもと、基調講演を行いました。石見氏は講演を通じて、多様な人々が集まり、大きな複合体を形成しながら知の情報発信の役割を持つ大学は、「ウェルネス」「ウェルビーイング」の創造者であるべきと述べ、さらに、京都大学におけるヘルシーキャンパスの実践や、PHR(Personal Health Record：個人の健康や身体の情報記録したデータ)を活用し、産学官で連携しながら地域の健康づくりをすすめている取り組みを紹介されました。

石見先生の講演に続いて、本学保健管理センターの山本教授、生協学生委員、アメフト部PHANTOMSも登壇し、岐阜大学におけるウェルネス活動を紹介しました。

本記念行事を通じて、岐阜大学のこれまでの歩みを振り返り、未来への新たな一歩を踏み出すことができました。本学は今後も持続可能な社会の実現に向けて邁進してまいります。そして、地域社会と共に発展し続ける地域の中核大学として、学生、教職員、そして地域の皆様とともにさらなる飛躍を目指していきます。



学長報告



産学連携教授称号授与

創立76周年記念日行事を開催



学生表彰



石見教授による講演



岐阜大学におけるウェルネス活動の紹介



ストリートダンス部MECによるパフォーマンス

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/6/5	中日	創立76周年記念 学生や職員表彰 ～吉田和弘学長～

## サステイナブルキャンパス評価システム(ASSC)において 最上位のプラチナ認証を取得

### 【概要】

岐阜大学は、持続可能な社会の実現に向けた取り組みが評価され、2024年度のサステイナブルキャンパス評価システム（ASSC）において、最上位のプラチナ認証を取得しました。6月21日（土）に立命館大学東京キャンパスで行われた表彰式において、岐阜大学を代表して工学部の櫻田修教授が、サステイナブルキャンパス推進協議会（CAS-Net JAPAN）の朴恵淑代表理事より認定証を受け取りました。

ASSCはCAS-Net JAPANが、「持続可能な環境配慮型社会の構築に貢献する大学キャンパス」を促進する取組みの一環として導入した評価・認定制度で、「運営」「教育と研究」「環境」「地域社会」の各部門について分析評価するものです。2014年に本システムが開始されてから、ASSCへの回答提出は延べ118校ありますが、プラチナ認定を受けたのは岐阜大学を含め6大学のみです。

岐阜大学は2018年度にゴールド認証を取得し、2021年度には初のプラチナ認証を取得。そして今回2024年度の認証更新においても引き続きプラチナ認証を取得することができました。

岐阜大学は今後も環境に配慮した活動を推進し、サステイナブルなキャンパスの実現を目指します。



認定証



左から朴恵淑代表理事、櫻田修教授

## 赤松諒一選手（本学教育学研究科修了）、 本田基偉選手（自然科学技術研究科2年）が、 吉田学長へ日本陸上競技選手権大会の結果を報告

### 【概要】

7月7日（月）、走高跳びの赤松諒一選手（本学大学院教育学研究科修了、現 SEIBU PRINCE所属、本学医学系研究科研究生）、本田基偉選手（自然科学技術研究科2年）と林陵平コーチ（本学教育学部保健体育講座 准教授・陸上部顧問・赤松選手の専任コーチ）が、4日に国立競技場（東京）で行われた第109回日本陸上競技選手権大会の結果報告のため、吉田学長を訪問しました。

2m25の記録で2位の好成績を収めた赤松さんは「世界陸上出場への内定（即内定は参加標準記録の2m33をクリア）は持ち越しとなりましたが、まずは良い成績を収められてほっとしています」と笑顔で話しました。

また2m10の記録で14位と健闘した本田さんは「赤松さんというトップレベルの選手が身近にいる環境で、選手としてのコミュニケーションを取りながら、レベルの高い練習を続けてこられたことが日本選手権出場に繋がりました、これからももっと上を目指していきたいです」と語りました。

吉田学長は、「日本選手権という国内トップレベルの大会に国立大学から2人も同時に出場することはまさに大学にとっての誇りです、これからも互いに切磋琢磨し合って頑張ってください」とエールを送りました。

赤松さんは、好成績を維持しており、9月に東京で行われる世界陸上競技選手権大会への出場を視野に入れ、今後も世界の舞台へ向け、林コーチと一緒に挑戦を続けていきます。

本学は、本田さん、赤松さんのように高いレベルの挑戦を続ける方を応援します。



左から林コーチ、大藪副学長、本田選手、赤松選手、吉田学長

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/7/5	岐阜	赤松準優勝 男子走り高跳び 日本選手権 左足の調子見て組み立てていた ～赤松諒一（岐阜大学大学院医学系研究科研究生）
2025/7/5	中日	走り高跳び 赤松2位 ～赤松諒一（岐阜大学大学院医学系研究科研究生）～

## 金沢大学の和田学長による講演会を開催

### 【概要】

7月17日（木）、金沢大学の和田隆志 学長を講師としてお迎えし、本学役員、部局長、本学防災担当教員を対象として、「災害対策・大学の対応等」と題した講演会を開催しました。

始めに、岐阜大学の吉田和弘学長から、和田学長の紹介と、講演についての謝辞が述べられました。

講演の冒頭、和田学長から、昨年1月に発生した令和6年能登半島地震により被災された全ての方へお見舞いが述べられ、金沢大学による能登半島地震における復旧対応や中長期の復興への方向性、地域と連携した学びへの対応、地震後すぐに設置した能登里山里海未来創造センターの活動内容などについて実例を交えた紹介がされました。

和田学長の講演内容は岐阜大学にとって非常に意義深いものであり、講演後の質疑応答では、震災への備えや事業継続計画の策定方法など、活発な意見交換が行われました。

被災地域の一日も早い復興を願うと共に、今後の両大学の発展と連携がますます進展していくことを期待します。



講演する和田学長

## 武藤経済産業大臣が本学を表敬訪問

### 【概要】

7月18日、吉田学長は武藤 容治経済産業大臣の表敬訪問を受け、大学の取り組みや将来構想などについて意見交換を行いました。

吉田学長は、武藤大臣を歓迎し、岐阜大学が地域社会との連携を重視し、ものづくりや環境・エネルギー等の分野を中心に産学官連携による研究開発や人材育成に力を入れていること、今後の大学のビジョンとして、グローバルな視点を持った教育・研究の推進や、地域の中核拠点としての役割強化を目指していること等について意見交換を行いました。

今回の表敬訪問は、岐阜大学にとって今後も地域と世界をつなぐ中核拠点として、教育・研究活動を一層推進するための、非常によい機会となりました。



広報誌「岐大のいぶき」を手に記念撮影

## ウェルネスイベント

### 「ウェルネスデー × 栄養の力でつながるプロジェクト」を開催

#### 【概要】

7月16日（水）、岐阜大学保健管理センターは大学生協学生委員会との共催で、ウェルネスイベント「ウェルネスデー × 栄養の力でつながるプロジェクト」を開催しました。

『栄養の力でつながるプロジェクト』とは、一般財団法人日本栄養実践科学戦略機構が企業・団体と連携し、管理栄養士・栄養士と共に、国内外の栄養課題の解決を目指すプロジェクトです。

今回で3年目を迎えた本イベントでは、管理栄養士による栄養講座や保健師・看護師による熱中症予防講座、フードモデルを選んでセンサーに乗せるだけで栄養価計算ができる「食育SATシステム」を用いた食事のバランスチェックなどを行いました。さらに、協賛会社から提供された600個を超えるキウイフルーツと一般財団法人日本栄養実践科学戦略機構が制作・発行した健康啓発資料を無料配布しました。配布物があったという間に無くなるなど、学生に大変好評でした。イベント参加者の中には3年連続の参加者もあり、「ぜひ来年も開催してほしい」との声もありました。

本イベントを通じて、食に関する関心と理解が深まり、毎日の食生活に生かされることを期待します。

保健管理センターと大学生協学生委員会は、大学生協中央店前にウェルネスルームをオープンしています。「皆さんの健康をもっと身近に、もっと気軽に」をコンセプトに、体組成計の測定のほか、健康に関するさまざまな啓発資料を展示しています。岐阜大学の構成員一人ひとりが健康でより良い生活を送れるよう、これからもサポートしていきます。



栄養講座の様子



食育SATシステム体験の様子



無料配布の様子



無料配布の様子

## 保健管理センター開設50周年を記念して シンポジウムを開催

### 【概要】

9月1日（月）、「岐阜大学保健管理センター開設50周年記念 岐阜大学シンポジウム ～大学のウェルネス～」を開催しました。本学講堂への参集が約300名、オンライン参加が約170名と、本学の学生・教職員、OB・OGに加え、全国の大学保健管理関係者など、幅広い関係者の参加がありました。

シンポジウムは、吉田学長の開会挨拶に続いて、全国大学保健管理協会理事で滋賀大学保健管理センター所長の山本祐二教授及び国立大学保健管理施設協議会会長で東京大学保健・健康推進本部副本部長の柳元伸太郎教授より来賓挨拶を、また、全国大学保健管理協会国際連携委員長で立命館大学保健センター所長の中川克教授、応用生物科学部長の西津貴久教授より祝辞を賜りました。また、大学間学術交流協定校である南フロリダ大学からは、国際交流担当のKiki Caruson（キキ・カルソン）副学長のビデオメッセージが紹介されました。

保健管理センター長の山本眞由美教授からの講演は、「保健管理センターの50年とこれから」と題し、50年間の重要な出来事が紹介されました。健康情報のデジタル化と一元化、それによるデータ分析強化と研究の活性化、学内外の連携強化、障害学生支援や感染症対策の終わりなき戦い等です。今後は、データ活用による科学的根拠に基づく健康支援の推進から大学全体のウェルビーイングを目指すという展望が語られました。

特別講演には、学生のウェルネス向上のための先進的な取組をしている米国から、米国大学保健管理協会(ACHA : American College Health Association)のJames Wilkinson（ジェームズ・ウィルキンソン）CEOを講師にお招きしました。「米国の大学におけるウェルビーイングの取組」と題して、ACHAが全米の大学に推進する学生ウェルネスと大学ウェルビーイングの理念や実際について、お話しをいただきました。

講演の後には、本学ストリートダンス部MECのダンスパフォーマンスが披露され、会場はとても盛り上がりました。

最後に、杉山誠副学長の閉会挨拶では、保健管理センターの活動が学生・教職員の健康とウェルビーイング推進の核として今までいかに重要であったかを再確認するとともに、今後は、さらに発展することへの期待が述べられました。



開会挨拶（吉田学長）



来賓挨拶（全国大学保健管理協会・山本理事）

保健管理センター開設50周年を記念してシンポジウムを開催



祝辞  
(南フロリダ大学USF World Kiki Caruson副学長)



講演 (保健管理センター・山本センター長)



特別講演 (ACHA・James Wilkinson CEO)

## 東京2025世界陸上 走高跳で8位入賞した赤松選手が吉田学長を訪問

### 【概要】

9月24日（水）、東京で開催された「東京2025世界陸上競技選手権大会」にて男子走高跳で、出場した日本人の最高成績となる8位入賞を果たした赤松諒一選手（本学教育学研究科修了、医学系研究科研究生）が、専任コーチの林陵平准教授（教育学部保健体育講座）とともに学長室を訪れ、吉田学長に大会結果の報告を行いました。

赤松選手は「日本開催という特別な舞台で、これまで聞いたことのないような大きな声援をいただけて、本当に嬉しかったです。応援してくださった岐阜大学の皆さん、県内の方々の声援も力になりました。結果には悔しさもありますが、次のステージに向けてさらに努力するための糧にしたいです」と語りました。

林コーチは「今大会でも日本人最高位の成績を収め、ここ数年は、世界トップレベルの大会で戦い続けることが出来ている本物のアスリートだと思います。コーチとして本当にいい選手と巡り会えたことに感謝したい」と振り返りました。

これに対し、吉田学長は「緊張感を楽しみに変えて、すごくリラックスして競技されているように見えました。世界の舞台での入賞という偉業を、あたりまえのように続けていることを大学としても誇りに思います。」と賛辞を送るとともに、赤松選手が本学の名誉を著しく高めた功績を認め、昨年のパリオリンピックでの入賞時に続き「学長特別表彰」を授与しました。

2023年のブダペスト大会から2大会連続の入賞、パリ2024オリンピックも含め3年連続の世界トップレベルの大会での入賞というすばらしい成績にもかかわらず、悔しさを隠さない赤松選手は、この先、もっとすごい成績を見せてくれるのではないかと期待させてくれます。岐阜大学はこれからも世界で戦う赤松選手を応援していきます。

がんばれ！赤松選手！



JAPANのユニフォームを着た赤松選手、林コーチとの記念写真



入賞を祝して懸垂幕を設置

東京2025世界陸上走高跳で8位入賞した赤松選手が吉田学長を訪問

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/9/15	岐阜	赤松（岐大院出）決勝進出 男子走り幅跳び 3度の試技一発クリア「思い切って攻めるのみ」～赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～
2025/9/15	中日	東京世界陸上 史上初 日本人2人決勝へ ～赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～
2025/9/17	岐阜	赤松（岐阜市出身）8位 世界陸上連続入賞 ～赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～
2025/9/17	岐阜	赤松、気迫の跳躍 痛み耐え入賞「記録まだ弱い」走り高跳び8位 ～赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～
2025/9/17	岐阜	三刀流 飽くなき探求 岐阜の異色ジャンパー 世界連続入賞 医学部研究生でホテルマン ～赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～
2025/9/17	中日	赤松8位 瀬古10位、男子走り高跳び ～赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～
2025/9/18	読売	赤松8位 男子走り高跳び ～赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～
2025/9/23	岐阜	世界陸上総括 日本勢入賞「11」最多タイ ～赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～
2025/9/25	岐阜	世界の激闘 報告「トップと渡り合えた」陸上入賞 赤松選手 岐阜大 ～赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～
2025/9/25	岐阜	赤松選手 ロスへ意欲 走り高跳び 28年五輪「万全の状態」 ～赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～
2025/9/25	中日	「けがを治してアジア大会へ」 ～赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～
2025/9/25	読売	赤松選手「今季一番の跳躍」走り高跳び 世界陸上8位報告 ～赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～

## 第4回岐阜大学フォト&アートコンテスト表彰式を開催

### 【概要】

9月24日（水）に、第4回岐阜大学フォト&アートコンテスト表彰式を開催しました。本コンテストは、学生や教職員が大学での日常生活やキャンパスライフを通じて感じた「岐阜大学の魅力」を学内外に発信することを目的に開催しています。今回は53点の素晴らしい作品が集まりました。審査の結果、6点の作品が優秀作品として表彰されました。

#### ・受賞者リスト

- 最優秀賞：応用生物科学部 山根京子さん
- 優秀賞：応用生物科学部 ニックネーム：カタツムリさん  
グローバル推進機構 松尾憲暁さん
- 佳作：応用生物科学部 秋葉れいさん  
グローバル推進機構 松尾憲暁さん
- 広報担当副学長賞：教育学部 ニックネーム ちいかまさん

（氏名非公開を希望の方はニックネームにて公表）

表彰式では、大藪副学長から「沢山のご応募ありがとうございました。作品は大学広報などで活用していきます。多くの方に、岐阜大学の何気ない日常や四季折々の風景の魅力を感じ取ってほしい」と挨拶があり、表彰者に表彰状と記念品を授与しました。

今回の応募作品は大学広報などで活用予定です。本学は今後も、本取組み等を通じて、学内外に向けて岐阜大学の魅力を発信していきます。



## 「岐阜大学経営者の会」設立総会を開催

### 【概要】

10月4日（土）、OKB岐阜大学プラザにて「岐阜大学経営者の会」設立総会が開催されました。本会は、岐阜大学で学んだ経営者が世代や業種を越えて交流を深め、相互のネットワークを通じて新たな価値を創出するとともに、母校および地域社会の発展に寄与することを目的に設立されたものです。

当日は、吉田和弘学長をはじめ大学執行部や卒業生、経営者など、計65名が参加し、盛況のうちに発足を迎えました。総会では、吉田学長（本会名誉会長）より「本学出身の経営者は堅実な経営で全国的にも高い評価を受けている、卒業生経営者の皆さまは本学の大切な財産であり、大学との連携を通じて地域に新たな価値を生み出していきたい」との挨拶がありました。続いて、小栗達弘副会長（岐阜造園株式会社 取締役会長）からは、「挑戦と共創で、未来を拓く会」という理念のもと、母校との連携や次世代の育成を通じて地域社会の発展に貢献していく決意が示されました。その後の特別講演では、Umaji Japan株式会社代表取締役で応用生物科学部4年生の杉本稜太さんが「日本の農産物を世界に！」と題して講演を行い、若き経営者の挑戦に大きな共感が寄せられました。

懇親会では、杉山幹夫会長（株式会社岐阜新聞社 最高顧問）が開会の挨拶に立ち、戦後間もない岐阜農林専門学校時代の思い出を交えながら、「岐阜大学が総合大学として発展してきたのは、先人たちの志の賜物であり、今回の『岐阜大学経営者の会』設立は、その精神を今に受け継ぐものである。またこれまで実現できなかった経営者同士のつながりが、ようやく形となった。皆でこの会を盛り立てていこう」と参加者に呼びかけられました。その後、竹中登一氏（アステラス製薬株式会社 元会長）の乾杯により、和やかな雰囲気の中で交流が行われ、世代や業種を超えたつながりが広がりました。

岐阜大学経営者の会は、「挑戦と共創で、未来を拓く会」を理念に掲げ、会員相互の交流を促進し、大学および地域社会と連携した活動を今後も進めてまいります。



集合写真



吉田学長

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/10/5	岐阜	岐阜大出身 経営者の会 親睦や産学連携へ設立 ～岐阜大学経営者の会～
2025/10/7	日刊工業	岐阜大出身の経営者が交流 新組織発足 産学連携も ～岐阜大学経営者の会～
2025/10/10	中日	岐阜大経営者の会が設立 卒業生連携、人的ネット生かす ～岐阜大学経営者の会～

## 第3回 岐阜大学ホームカミングデイを開催

### 【概要】

2025年11月1日（土）、第3回 岐阜大学ホームカミングデイを開催しました。

本イベントは、岐阜大学に関わるすべてのステークホルダーを対象に、相互の交流と連携を深め、持続可能な関係性の構築および相互支援の促進を目的として実施しており、今年度で3回目の開催となります。当日は、午前には大学全体としてのプログラム、午後には各学部主催による催しが行われました。

午前の部には、本学講堂に208名が来場し、また、YouTubeによる同時配信では100名を超える方々にご視聴いただきました。

はじめに吉田学長から大学の動向について報告があり、続いて、本学の教育研究の発展に寄与した学外者に対して、感謝状の贈呈が行われました。さらに、同窓会連合会会長表彰として、安福やすふく嘉則氏（医学部医学科卒業）、亀井正治氏（農学研究科修了）、赤松諒一氏（教育学研究科修了）の3名が表彰されました。

その後、3氏による特別講演が行われました。安福氏は、「山村の診療所四十年から」-ここに帰る-と題し、洞戸診療所での多岐にわたるエピソードを紹介され、モノやヒトを含むすべての存在には背景があり、多くの関わりの中で一連の流れとして存在しているという視点についても語られました。亀井氏は、「虫を相手の物造り - 昆虫の生理活性物質を用いた駆除剤の開発等 - 」と題し、ご自身の研究内容や開発に携わった製品の紹介に加え、学生への期待、技術者としての心得について言及されました。赤松氏は、「競技力向上のための研究と実践」と題し、現在取り組んでいるトレーニングや研究内容を紹介されるとともに、今後の展望についてもお話しくださいました。参加者は、各分野で活躍中の演者の貴重なご講演に、熱心に耳を傾けていました。

午後の部は、各学部が企画したシンポジウム、公開講座、研究室見学、パネル展示、交流会など、多彩な催しが行われました。合計356名の方にご参加いただき、卒業生、在学生、教職員などが交流を深める貴重な機会となりました。

岐阜大学校友会は、岐阜大学すべてのステークホルダーとの連携強化を目的に、引き続き活動を継続してまいります。

### ・感謝状受賞者

感謝状 : 高橋睦様、森田浩之様  
功労賞 : 川島光夫様、武内康雄様  
特別功労賞 : 竹中登一様



開会挨拶（吉田学長）



大学の動向報告（吉田学長）

第3回 岐阜大学ホームカミングデイを開催



感謝状贈呈



感謝状（功労賞）贈呈



感謝状（特別功労賞）贈呈



同窓会連合会会長表彰



特別講演（安福嘉則氏）



特別講演（亀井正治氏）

第3回 岐阜大学ホームカミングデイを開催



特別講演（赤松諒一氏）



集合写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/11/14	岐阜	岐阜大OB医師 地域医療語る ホームカミングデイ ～医学部卒業生 安福嘉則さん～

## 大学会館食堂「API DINING」の命名記念式典を開催

### 【概要】

11月17日(月)、大学会館食堂において「API DINING」の命名記念式典を開催しました。式典には、アピ株式会社より野々垣代表取締役社長をはじめとする関係者、本学からは吉田学長、王副学長、高橋副学長補佐などが出席し、大学会館食堂「API DINING」の新たなスタートを祝いました。

式典冒頭では、吉田学長よりアピ株式会社からの多大なご支援への感謝と、今後もさまざまな専門分野で同社との連携を強化し、地域とともに成長する大学であり続けたいとの挨拶がありました。続いて、野々垣社長からは、愛称「API DINING」に込められた想いや、食堂をきっかけに会社に親しみをもってほしいこと、岐阜大学とのつながりを大切にし、今後も多様な形で貢献したいとのご挨拶をいただきました。その後テープカットが行われ、大学会館食堂「API DINING」は、アピ株式会社との連携を象徴する施設として新たな一歩を踏み出しました。

「API DINING」の愛称は2025年11月1日から2029年10月31日までの4年間使用されます。命名権事業で得られる収益は本学の教育及び研究の発展・向上に役立てていきます。



吉田学長



野々垣代表取締役社長



式典の様子



式典の様子

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/11/18	岐阜	岐阜大学食堂 アピが命名権
2025/11/23	中日	岐阜大学食堂命名 アピが権利を獲得

## 医学部創立80周年・医学部附属病院創立150周年 記念式典を開催

### 【概要】

本学医学部が創立80年、医学部附属病院が創立150周年を迎えたことを記念し、10月26日（日）に岐阜グランドホテルにて記念式典を開催しました。約160名の関係者が出席し、これまでの歩みを振り返りました。

医学部は1944年に岐阜県立女子医学専門学校として、医学部附属病院は1875年に岐阜県公立病院・附属医学校として開設し、岐阜の地で医学分野の教育研究と地域医療の中核を担ってきました。

式典は、医学部室内合奏団による演奏から始まり、牛越 博昭 医学系研究科長・医学部長、秋山 治彦 医学部附属病院長からの挨拶、吉田 和弘 学長による記念講話、清水 雅仁 医学部附属病院副病院長から医学部80年・附属病院150年の歩みの紹介等がありました。

岐阜大学医学部・医学部附属病院は、今後も更なる発展を目指し、地域とともに歩み続けます。



牛越医学系研究科長・医学部長



秋山病院長



吉田学長による講話



式典の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/10/27	中日	岐阜大医学部80周年 附属病院150周年祝う 岐阜で記念式典
2025/10/27	岐阜	岐阜大医学部、節目祝う 創立80周年、附属病院設立150周年で式典
2025/12/12	中日	岐阜大学医学部創立80周年 岐阜大学医学部附属病院創立150周年 地域とともに、医の未来を築く。
2025/12/28	岐阜	岐阜大学医学部創立80周年 岐阜大学医学部附属病院創立150周年 地域医療の未来を守る ～医学系研究科 研究科長 牛越博昭 教授、第一内科・生体支援センター 生駒良和 助教、地域医療医学センター 仙石由貴 特任助教、医学部4年 夏目侑奈さん、高橋一輝さん、岩田千紗子さん、水谷暉さん、梅田陽七子さん～

## iGEM Gifuへの岐阜大学基金学長特別表彰贈呈式を実施

### 【概要】

12月11日（木）に岐阜大学基金学長特別表彰の贈呈式を実施しました。

この表彰制度は、2023年10月に岐阜大学基金を活用して新設されたもので、教職員および学生等を対象に、国内外で国際的な評価や権威ある賞を受賞し、本学の名誉を著しく高めたと認められる場合に表彰するものです。今回が5件目の贈呈となります。

このたび、本学学生チーム「iGEM Gifu」は、長浜バイオ大学と「Japan Scinet」を結成し、10月28日から31日にフランス・パリで開催された世界最大級の合成生物学大会「iGEM 2025 Grand Jamboree\*」に参加しました。同チームは、野菜や果物の廃棄削減に向けた合成生物学的アプローチをテーマに、鮮度保持・腐敗防止・安全性の可視化を同時に実現する革新的かつ実用性の高いシステムを提案しました。技術面のみならず、社会実装を見据えたHuman Practices活動においても高い評価を得て見事に金賞（Gold Medal）を受賞し、本学の名誉を著しく高めたことから、今回の贈呈となりました。

贈呈式では、学長から「皆さんの活躍は岐阜大学の誇りです。このすばらしい取組を後輩たちにも引き継いでください」との言葉があり、学生からは「今回の取組が今後のiGEMの挑戦に貢献できたら嬉しいです。」とのコメントがありました。

岐阜大学は、「キャンパスまるごと共創型社会実装大学」への変革を目指し、戦略的な取組を進めてまいります。

\* iGEM 2025 Grand Jamboree :

世界最大級の合成生物学の国際大会で、学生主体の研究プロジェクトを発表している。遺伝子や細胞を「部品」として組み合わせ、新しい機能を持つ生物システムを設計・構築する研究を競う。研究成果だけでなく、倫理的配慮、社会実装、教育活動なども評価対象となっている。



## 吉田学長が「第31回 中山恒明賞」を受賞

### 【概要】

吉田学長が、第63回日本癌治療学会学術集会において「第31回中山恒明賞」を受賞しました。この賞は日本癌治療学会から、がん治療・診断・予防の分野で顕著な業績を挙げた研究者に贈られる名誉ある賞であり、がん外科領域における最高峰の栄誉の一つです。

今回の受賞理由は、吉田学長による「消化器癌における分子病理学的解析と集学的治療開発に関する研究」で、分子レベルでの病態解明と治療法の革新に大きく貢献したことが高く評価されました。

### <学長コメント>

歴史と伝統ある日本がん治療学会・中山恒明賞を受賞させていただく事ができ、たいへん光栄に存じます。小生これまで、消化器癌の基礎研究・臨床研究・外科治療に携わり、癌細胞のautocrine増殖を証明し、分子標的薬治療・低侵襲治療につながる研究が出来ました。臨床面では、腹腔鏡手術およびロボット手術などの導入・普及に貢献出来ました。胃癌stage IIIでの新たな補助化学療法を開発し(S-1+Docetaxel療法)、胃癌治療のガイドラインを更新する事が出来ました。また、手術不能なstage IV胃癌に対してConversion Surgery の概念を確立するなど癌研究・集学的治療開発に微力ながら貢献することができました。岐阜大学から世界への新たな治療発信が出来たのも、岐阜地域の患者さん、消化器外科・内科の先生方のご支援のおかげです。この場をお借りして感謝とお礼を申し上げます。

吉田 和弘



## 文部科学省科学技術・学術政策局参事官が本学を訪問

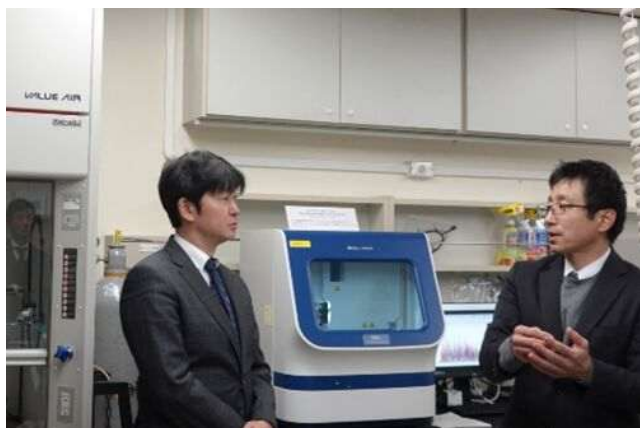
### 【概要】

12月19日、文部科学省科学技術・学術政策局から馬場大輔 参事官（研究環境担当）をはじめとする5名が岐阜大学を訪問しました。

一行は、まずゲノム研究棟と生命科学棟を訪れ、大学内における研究設備・機器の共用化の取り組みを視察しました。

その後、吉田学長、王副学長ら執行部との意見交換会を実施しました。本学からは教育・研究強化に向けた取り組みを紹介し、社会実装大学や地方大学の今後の在り方について議論を交わしました。文部科学省からは先端研究基盤刷新事業についての説明があり、馬場参事官は、研究設備の共用拠点を産学の組織連携で形成することで、新たな協働や成長が期待できると語りました。

岐阜大学は今後も、総合知を活かした研究力の強化を進め、ものづくりを大学改革の推進力として組織整備を図るとともに、ライフサイエンスや環境科学への共創研究の仕組みとノウハウを横展開することを目指します。また、文部科学省などの機関との情報交換の場を引き続き設けてまいります。



ゲノム研究棟視察



生命科学棟視察



意見交換会



意見交換会

## 畑中臨床講師への岐阜大学基金学長特別表彰贈呈式を実施

### 【概要】

1月6日（火）に「岐阜大学基金学長特別表彰」の贈呈式を行いました。この表彰は、国際的に高い評価を受け、権威ある表彰制度等で受賞し、本学の名誉を著しく高めたと認められる学生・教職員に授与するもので、今回で6件目の贈呈となりますが、教職員としては今回が初めての受賞です。

医学部附属病院の畑中勇治 臨床講師は、2025年11月にシンガポールにおいて世界内視鏡外科学会（WCES2025）の中で開催された、腹腔鏡手術の縫合・結紮技術を競う国際大会「MIS Championship2025」に日本代表として出場し、日本チームの優勝に大きく貢献しました。この大会に先立つ2024年12月に第37回日本内視鏡外科学会内で開催された日本代表選抜選手権でも優勝しており、日本一として日本代表の座を獲得したことと併せて、本学附属病院の高い技術力を示すものとして、岐阜大学の名誉を著しく高めたと認められ、今回の表彰となりました。

贈呈式では、吉田学長が附属病院勤務時に畑中臨床講師の直属の上司であった頃のエピソードなどで話が大きく盛り上がったほか、吉田学長から今後の抱負を尋ねられた畑中臨床講師は「腹腔鏡手術の手技だけでなく、術前等を含めたトータルで"手術の達人"を目指したい。また、研修医等に技術を伝え、外科医の楽しさを知ってもらい、外科医を志す医師を増やしたい。」と語りました。

岐阜大学は、より良い医療を提供するため、今後もさらなる診療の向上に努めてまいります。



表彰の様子



懇談の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2026/1/7	岐阜	外科手術国際大会で優勝 岐阜大附属病院 畑中さん表彰～附属病院消化器外科 畑中勇治 臨床講師～
2026/1/8	朝日	岐阜大・畑中臨床講師 腹腔鏡手術で世界一に 日本代表で大会出場「達人目指す」～附属病院消化器外科 畑中勇治 臨床講師～
2026/2/13	中日	腹腔鏡手術の腕世界一 岐阜大病院の畑中医師ら 12か国から出場「今後も研さんを」～医学部附属病院消化器外科 畑中勇治 臨床講師～
2026/2/20	岐阜	腹腔鏡手術、国際大会V 畑中さん（岐阜大病院）「達人」目指す ～医学部附属病院消化器外科 畑中勇治 臨床講師～

## 文部科学省 高等教育局 国立大学法人支援課長が 本学を訪問

### 【概要】

1月22日（木）、文部科学省 高等教育局より村尾 崇 国立大学法人支援課長らが岐阜大学を訪問しました。

今回の訪問では、本学が誇る最先端研究拠点である糖鎖生命コア研究所および航空宇宙生産技術開発センターを視察しました。視察では名古屋大学との研究連携に関する取り組みなどを紹介しました。

その後、吉田学長、王副学長ら執行部と、法人統合の成果や取り組み、課題について活発な議論が交わされました。

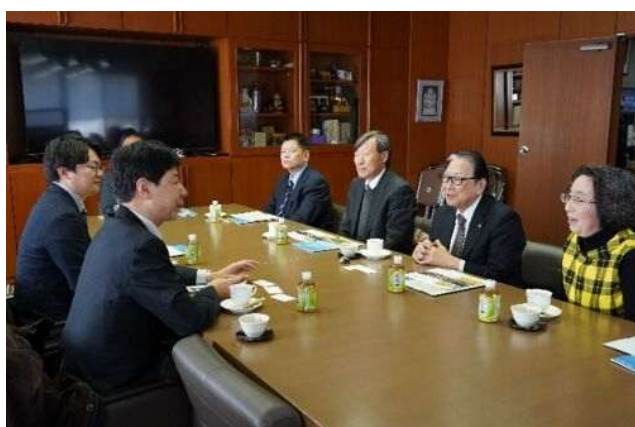
本学では今後も、文部科学省をはじめ関係機関との情報交換の機会を積極的に設け、最先端研究のさらなる推進と地域社会への一層の貢献を目指してまいります。



糖鎖生命コア研究所視察



航空宇宙生産技術開発センター視察



意見交換会

## 「岐阜大学経営者の会」新年会を開催

### 【概要】

1月25日（日）、都ホテル岐阜長良川において「岐阜大学経営者の会」の新年会を開催しました。本新年会は、岐阜大学で学んだ経営者が一堂に会し、世代や業種を越えた交流を深め、今後の連携や共創につなげることを目的として開催したものです。

当日は、会員である経営者の皆様をはじめ、大学関係者など約30名が参加しました。開会にあたり、小栗達弘副会長（株式会社岐阜造園 代表取締役会長）より挨拶があり、続いて佐藤武彦代表幹事（サトウパック株式会社 代表取締役／岐阜県議会議員）の乾杯の発声により、和やかな雰囲気の中で会が始まりました。

会の中では、吉田和弘学長から岐阜大学の近況報告が行われたほか、会員を代表して佐藤武彦氏、浅井彰子氏（言の葉のうつわ 代表）がそれぞれスピーチを行い、本会への期待を語られました。

また、翌1月26日（月）には東京都内でも新年会を開催し、首都圏在住の会員を中心に7名が参加しました。こちらでも活発な意見交換や交流が行われ、有意義な時間となりました。

岐阜大学経営者の会は、今後も会員相互の交流を基盤に、岐阜大学および地域社会と連携した活動を進めてまいります。



小栗副会長による挨拶



集合写真

## 岐阜大学が「ぎふし共育・女性活躍企業」に認定

### 【概要】

岐阜大学は、2月6日（金）に開催された「令和7年度ぎふし共育・女性活躍企業認定式」において、岐阜市より「ぎふし共育・女性活躍企業」として認定されました。認定式では柴橋正直岐阜市長より本学男女共同参画室長である大藪副学長へ認定証が授与されました。

本制度は、男性の主体的な育児参画推進に向けて取り組む「共育企業部門」と、女性のさらなる活躍を目指して取り組む「女性活躍企業部門」の2部門で構成されています。本学は両部門において認定を受けており、今回は2回目の更新となります。

2月10日（月）には、大藪副学長が学長室を訪問し認定の報告を行いました。これに対し吉田学長からは、今後の取組に向けた激励の言葉がありました。

岐阜大学では、今後も男女がともに個性と能力を発揮し活躍できる大学づくりを目指してまいります。



ぎふし共育・女性活躍企業認定式  
岐阜市男女共同参画優良事業者表彰式

認定式の様子



学長への報告

## 令和7年度岐阜大学応援奨学生学習成果報告会を開催

### 【概要】

岐阜大学では、昨年の創立60周年を契機として設立した「岐阜大学基金」による事業の一環として、人物および学業成績が優れ、他の学生の模範となる学生に奨学金を支給することで、その学修を支援し、将来社会に貢献する人材の育成を図ることを目的に、平成22年度より「応援奨学生制度」を実施しています。

令和7年度は、学部・研究科等から計29名の応援奨学生が選出され、2月24日（火）に、これらの奨学生による学習成果報告会を開催しました。

報告会の冒頭では、吉田学長より応援奨学生として選出された学生一人ひとりのこれまでの努力に対して労いの言葉が贈られるとともに、今後さらなる研鑽を積み、社会に貢献する人材として大きく成長することへの期待が述べられました。続いて、大藪副学長からは、岐阜大学基金の設立趣旨やこれまでの寄附者による支援の状況、および基金を活用した事業の概要について説明が行われ、本制度が多くのご支援によって支えられていることが紹介されました。

その後、応援奨学生が順次登壇し、学修・研究活動における成果、今後の抱負、そして奨学金支給に対する感謝の意を、1分間スピーチとして発表しました。いずれの発表からも、学びに向かう真摯な姿勢と将来に対する強い志が感じられ、本学が育成を目指す人材像を体現する内容となりました。

また、益子副学長からは、学生の成長がうかがえる有意義な機会であったとの総括が述べられました。



奨学生を労う吉田学長



スピーチをする教育学部4年坂井さん



集合写真

## 北陸先端科学技術大学院大学の小泉副学長による 講演会を開催

### 【概要】

3月12日に北陸先端科学技術大学院大学の小泉副学長を講師として迎え、部局長や学術研究・産学官連携推進本部所属の特任教員、URA、コーディネーターを対象とした講演会を開催しました。

小泉副学長は、「4 t h Generation University(4GU)から考える大学と社会の新しい関わり方」と題して、大学自身が社会との関係性を主体的に設計し直すための思考の枠組みとして4GUを捉え、新しい形で岐阜大学と社会と関わる方法について講演されました。

その後の質疑応答では、4GUの課題や展望、研究力強化、産学官連携の方向性などについて、率直な意見交換と情報共有が行われ、参加者にとって貴重な機会となりました。



講演会



集合写真